



～図書室にはこんな本があります～

No. 53

★ 今回は、昭和館図書室で利用できるCD資料のご紹介をします。

- ◆ 『大宅壮一雑誌記事索引 CD-ROM 版 1992-1996』の使い方を簡単にご説明します。
詳しくは、説明書をごらんください。
今回は、このCD-ROMで雑誌「暮しの手帖」を調べてみます。

- ◎調べ方
1. 〈検索画面〉を開きます。
 2. **雑誌名**を押すと〈雑誌名の画面〉が開くので、「暮しの手帖」と入力し、確定すると〈検索画面〉に戻ります。
 3. 雑誌名：暮しの手帖と入力されている状態で**検索開始**を押すと、検索結果が1117件と表示されます。
 4. **一覧表示**を押し、〈一覧画面〉から調べたい記事を探して、選択します。
 5. **詳細表示**を押すと、④で選択した項目の〈詳細画面〉が表示されます。

- ◎注意
- ★ 昭和館図書室の雑誌の所蔵は、昭和館の検索端末で調べられます。
 - ★ CD-ROMの検索結果の出力はできません。
 - ★ このCD-ROMは記事の検索用です。記事は表示されません。

- ◆ CD資料のご利用の手順はこのようになります。

1. カウンターに請求票を出して下さい。
2. 説明書を参考に検索をして下さい。
3. 画面をすべて閉じて終了して下さい。
4. CD-ROMと説明書を箱に入れ、カウンターに返却して下さい。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等がわからない場合は、カウンター職員までお気軽に…。

・・・もう一冊！！！！・・・51

日頃神田の古本屋さんばかり歩いている筆者ですが、1月16日に、久しぶりに大阪の阪神デパートで行われた古書展に行ってみました。規模はさほど大きくないのですが、微妙に品揃えが目新しく、じっくり楽しめました。全体的な値付けにバラツキがあり、地域性かなと思いました。例えば、講談社が出した「東京大震災大火災」関東大震災直後に出した、ちょっとキワモノノッポイ本ですが、東京なら1000円か2000円のものですが、5000円付いていました。こりゃ高いよ。宮武外骨が、史上空前の漉き返し材料と、馬鹿にした本で、ちょっと前まで500円くらいでした。まあ、関西には少ないのかなと言うことでしょう。ここで4～5冊買いましたが、さすがデパート展です。店員の本の包み方がまあ丁寧なこと。遅いこと。これは東京も同じですが、古本を買う人に包み方の綺麗さなど、全然要らないのですけれどね。

紙袋を抱えてチョット歩くと、数軒の古本屋があります。なかなか良い本屋で、昔は天牛書店が有ったのですが、場所が変わったのかなあ。ここでも数冊買い込んで、今度はガードをくぐって阪急古書の町に行きます。ここはビルの1階に10軒ほどの古書店が入っていて、どの店も、なかなか個性のある良い店です。案外安いし、ここでも・・・キリがないですね。

ここで買った本に、桜井忠温の「肉弾」があります。年配の人なら知らない人の無いほど有名な日露戦争の陸戦体験記なのですが、これは英語版、しかも昭和19年という、敗戦も遠くない時期の出版なのです。こんな時期になんで英語版の日露戦記が、と思いますが、同時期に海軍の傑作日露戦記である「この一戦」が、やはり英語版で出版されていることを思うと、東南アジア、フィリピンの知識層に対する、「日本は強いぞ」という政府公報であったような気がします。最後に「晩年の東郷元帥」という本が目につきました。小笠原長生の書いた本で、持っているのですが何となく手に取ると、小笠原の献呈本でした。まあ、安いのでこれも買い入れ・・・、隣にはオッツ内田魯庵著、柳田泉編の「書齋文化」持っているのは箱無しだけどこれは綺麗だから買いましょう、・・・。と終わりのない旅をした筆者は、思い紙袋をぶら下げながら、帰りの新幹線に乗り込みました。

ウーム、あまり行かない町の古本屋は面白いなあ。と思いながら寝込みました。

(午睡)



—図書室から—

今年はいつになく晴天で暖かいお正月でした。そのせいか寒さが少し身にしみますね。梅の開花も見られ、少しづつ春へと近づいています。受験生も本番を控え、緊張の季節です。

* 2月17日(火)～29日(日)まで休室します。

4階図書室及び5階映像・音響室は資料整理のため休室します。ご了承ください。

なお、6・7階常設展示室、1階の「懐かしのニュースシアター」は通常通りご覧になれます。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ No. 53

2004年1月21日 発行

編集・発行 昭和館 図書室

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1